

Ⅱ 調 査 結 果

1 むらの現状について

(1) 村への愛着度について

問2 あなたは、平田村に「自分のむら」としての愛着をどの程度感じていますか。

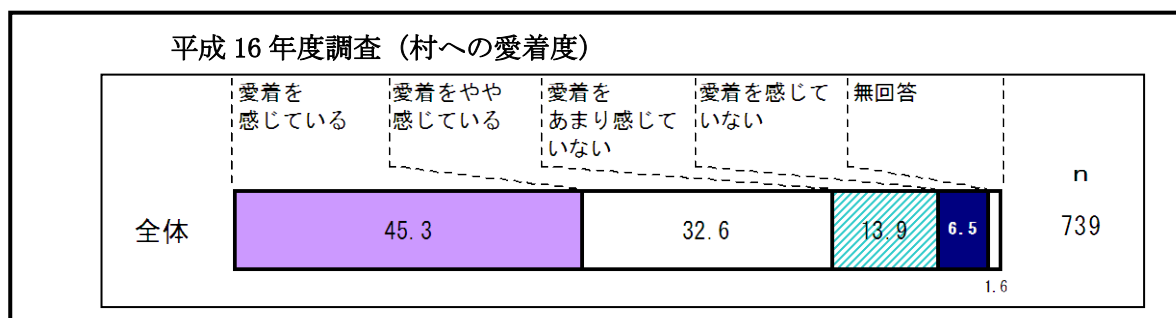
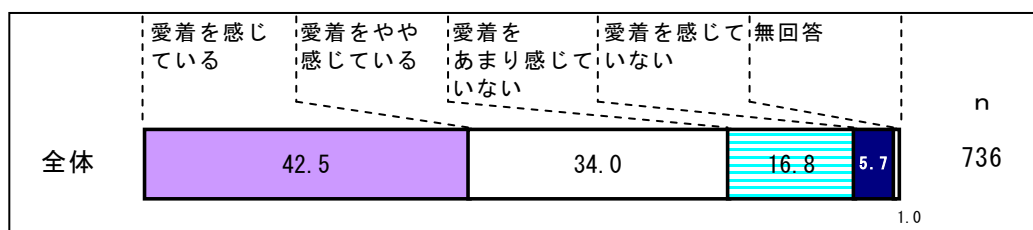
- “愛着を感じている”が76.5%。一方、“愛着を感じていない”は22.5%。
- 平成16年度調査では、“愛着を感じている”が77.9%。一方、“愛着を感じていない”は20.4%。

村民の村に対する愛着度を把握するため、「愛着を感じている」、「愛着をやや感じている」、「愛着をあまり感じていない」、「愛着を感じていない」の中から1つを選んでもらった。

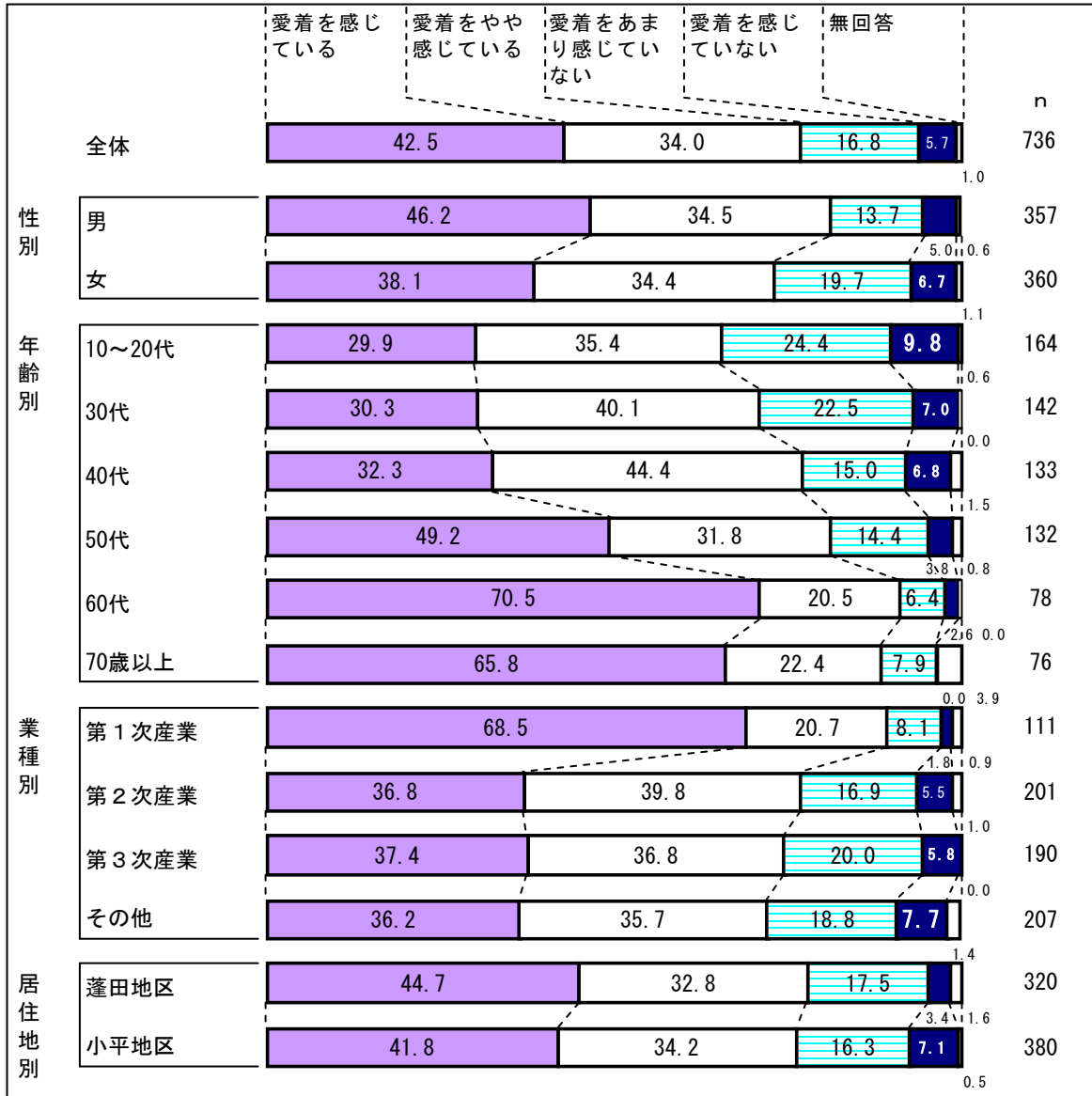
その結果、「愛着を感じている」と回答した人が42.5%、「愛着をやや感じている」という人が34.0%、これらをあわせた“愛着を感じている”という人が76.5%にのぼる。これに対して、“愛着を感じていない”（「愛着をあまり感じていない」16.8%及び「愛着を感じていない」5.7%の合計）は22.5%にとどまり、村への愛着度は高いといえる。[図表1参照]

年齢別でみると、「愛着を感じている」率は若年層と高齢層で違いがみられ、60代で70.5%と7割強にのぼる一方で、10～20代では29.9%にとどまる。[図表2参照]

図表1 村への愛着度について(全体)



図表2 村への愛着度について(全体、性別、年齢別、業種別、居住地別)



(2) 今後の定住意向について

問3 あなたは、これからも平田村に住み続けたいと思いますか。
 問3付問 その主な理由はなんですか。【※問3で「3.」または「4.」に○をつけた方のみ／複数回答】

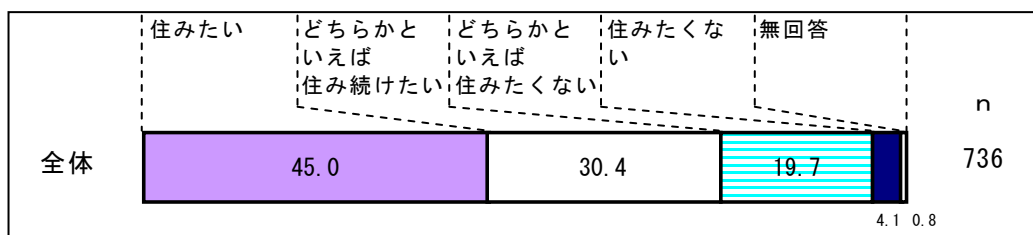


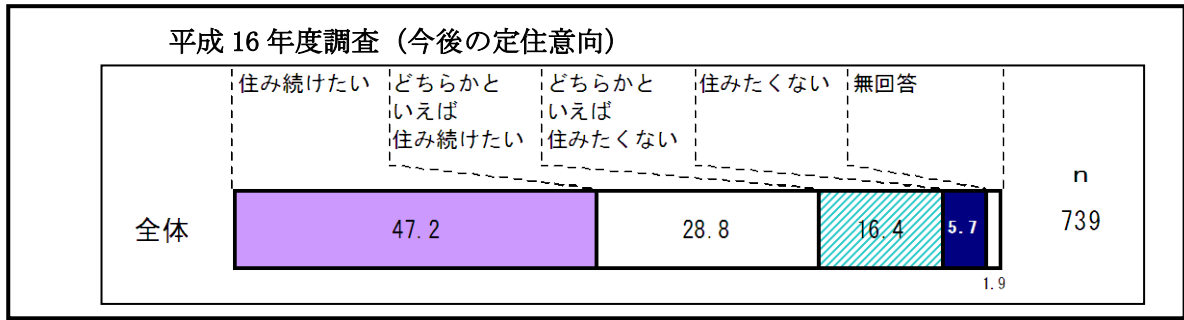
- “住み続けたい”が75.4%。一方、“住みたくない”は23.8%。
- “住みたくない”理由は「日常の買い物が不便」が第1位。
- 平成16年度調査では、“住み続けたい”が76.0%。一方、“住みたくない”は22.1%。
- 平成16年度調査では、“住みたくない”理由は「村内に適切な職場が少ない」が第1位。

村民の定住意向を探るため、「住みたい」、「どちらかといえば住み続けたい」、「どちらかといえば住みたくない」、「住みたくない」の中から1つを選んでもらったところ、「住みたい」と答えた人が最も多く45.0%、これに「どちらかといえば住み続けたい」(30.4%)をあわせた75.4%の人が“住み続けたい”という意向を示している。一方、「どちらかといえば住みたくない」(19.7%)及び「住みたくない」(4.1%)と答えた“住みたくない”という人の合計は23.8%と、愛着度の回答結果と似通った傾向を示している(“愛着を感じている”は76.5%、“愛着を感じていない”は22.5%)。[図表3、4参照]

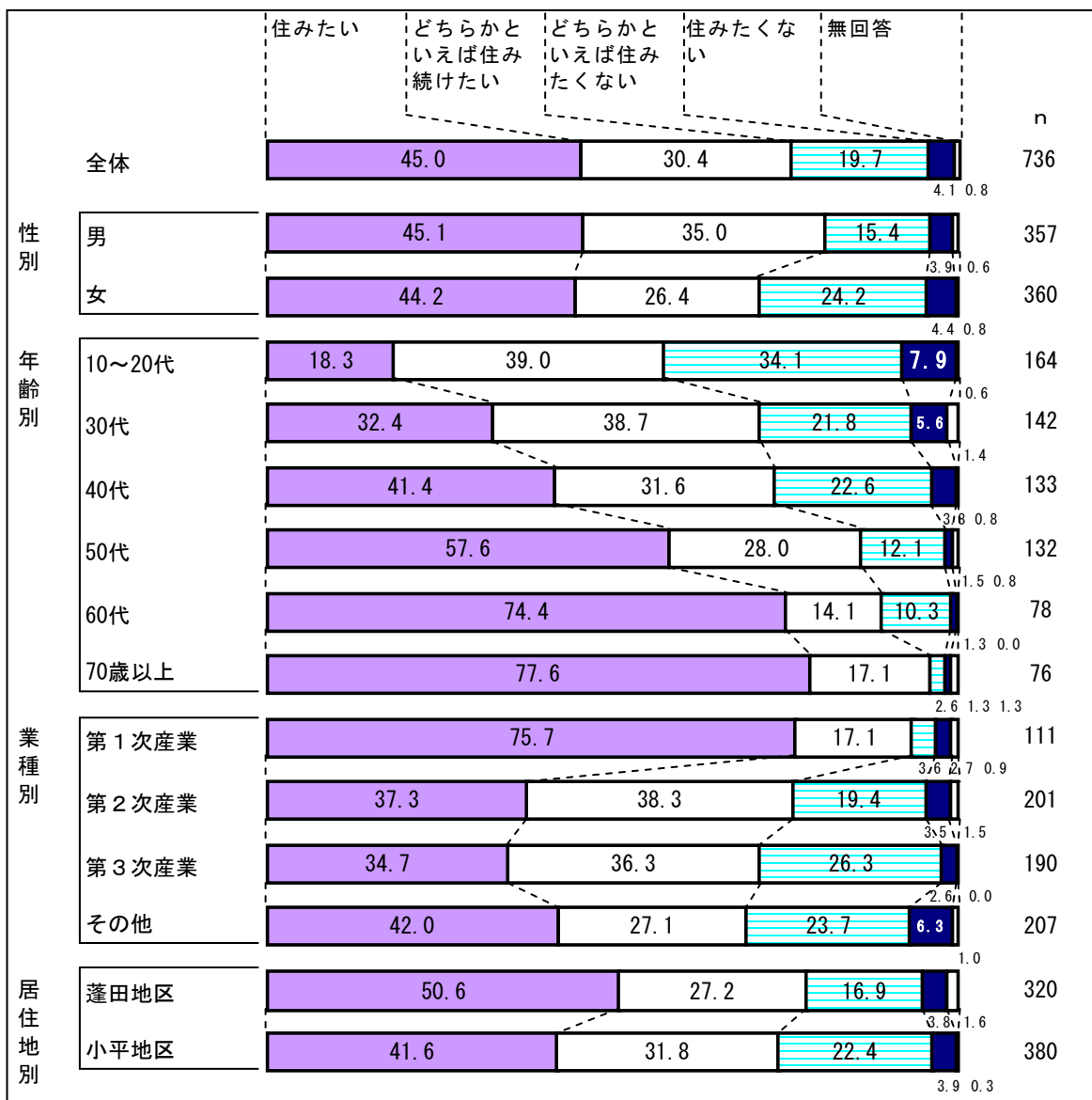
また、「どちらかといえば住みたくない」、「住みたくない」と回答した人(全体の23.8%・175人)に、その理由をたずねたところ、「日常の買い物が不便」(40.6%)が第1位に挙げられ、僅差で「適切な職場が少ない」(39.4%)が続き、以下、「道路・交通の便が悪い」(32.0%)、「地域の行事や近所づきあいが面倒」(16.6%)、「保健・医療環境が不十分」(14.3%)、「子どもの保育・教育が心配」(13.1%)、「スポーツ・レジャー・文化環境が不十分」(8.0%)、「気象条件が厳しい」(6.3%)、「福祉環境が不十分」(2.3%)、「生活環境施設整備が遅れている」(1.7%)、「住環境整備が遅れている」(1.1%)、「自然環境の悪化が進んでいる」(0.6%)の順となっている。[図表5、6参照]

図表3 今後の定住意向について(全体)

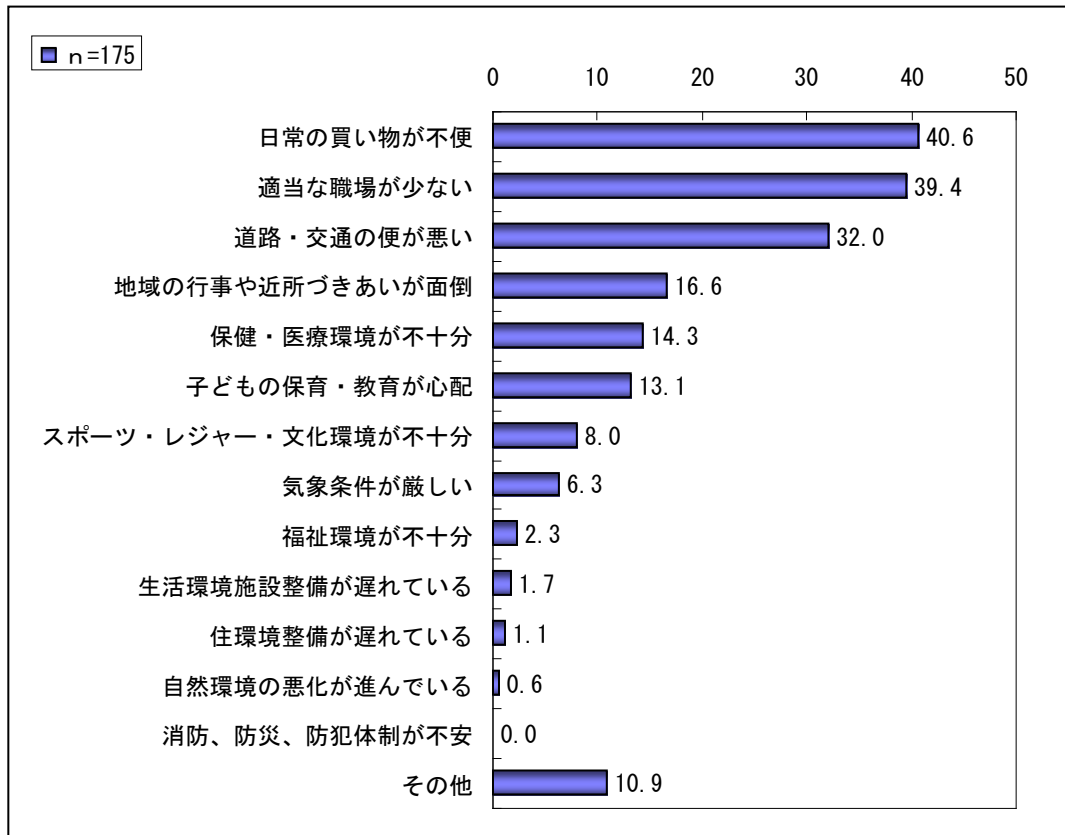




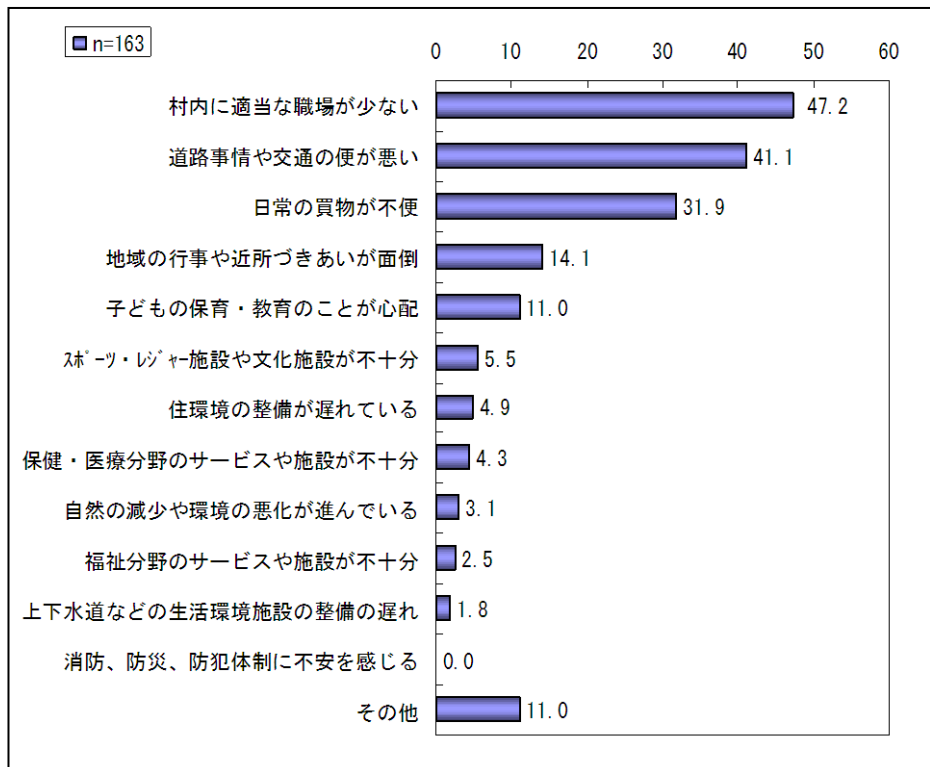
図表 4 今後の定住意向について(全体、性別、年齢別、業種別、居住地別)



図表5 住みたくない主な理由について(全体/複数回答)



平成16年度調査(住みたくない主な理由)



図表6 住みたくない主な理由について(全体、性別、年齢別、業種別、居住地別/複数回答)

(上位3位)

		第1位	第2位	第3位
全体		日常の買い物が不便 40.6	適当な職場が少ない 39.4	道路・交通の便が悪い 32.0
性別	男	適当な職場が少ない 43.5	道路・交通の便が悪い 37.7	日常の買い物が不便 33.3
	女	日常の買い物が不便 46.6	適当な職場が少ない 35.0	道路・交通の便が悪い 29.1
年齢別	10~20代	日常の買い物が不便 59.4	道路・交通の便が悪い 40.6	適当な職場が少ない 39.1
	30代	日常の買い物が不便 35.9	適当な職場が少ない 33.3	地域の行事や近所づきあいが面倒 23.1
	40代	適当な職場が少ない 42.9	道路・交通の便が悪い 34.3	子どもの保育・教育が心配 25.7
	50代	適当な職場が少ない 44.4	地域の行事や近所づきあいが面倒/保健・医療環境が不十分 27.8	
	60代	日常の買い物が不便/道路・交通の便が悪い 44.4		気象条件が厳しい 33.3
	70歳以上	適当な職場が少ない 66.7	日常の買い物が不便/道路・交通の便が悪い/生活環境施設整備が遅れている 33.3	
業種別	第1次産業	適当な職場が少ない 42.9	道路・交通の便が悪い/保健・医療環境が不十分 28.6	
	第2次産業	日常の買い物が不便 43.5	適当な職場が少ない 41.3	道路・交通の便が悪い 28.3
	第3次産業	日常の買い物が不便 40.0	道路・交通の便が悪い 34.5	適当な職場が少ない 25.5
	その他	適当な職場が少ない 46.8	日常の買い物が不便 43.5	道路・交通の便が悪い 33.9
居住地別	蓬田地区	日常の買い物が不便 37.9	適当な職場が少ない 34.8	道路・交通の便が悪い 24.2
	小平地区	適当な職場が少ない 43.0	日常の買い物が不便 41.0	道路・交通の便が悪い 37.0

(3) 村の現状評価について

問4 平田村の各環境に関する(1)～(26)の各項目についておたずねします。

①重要度

- 重要度の最も高い項目は「火災や災害からの安全性」。次いで「自然環境の豊かさ」、「保健・医療の状況」の順。
- 平成16年度調査では、重要度の最も高い項目は「自然環境の豊かさ」。次いで「火災や災害からの安全性」、「子どもの教育環境」の順。

平田村の各環境について、どの程度重視しているかを把握するため、自然環境や生活基盤、福祉・教育・文化環境、施設など各分野にわたる26項目を設定し、項目ごとに「重視している」、「やや重視している」、「どちらともいえない」、「あまり重視していない」、「重視していない」の5段階で評価してもらい、その結果を加重平均値〔後述参照〕による数量化で評価点(重要度：最高点10点、最低点-10点)を算出した。

これによる全体での重要度評価は、「火災や災害からの安全性」(5.42点)が最も高く、次いで「自然環境の豊かさ」(5.22点)、「保健・医療の状況」(5.02点)と続き、以下、「子どもの教育環境」(5.01点)、「ごみの収集・処理の状況」(4.99点)などの順となっている。

また、居住地別に重要度の上位項目をみていくと、以下のとおりにまとめられる。

[図表7～9参照]

蓬田地区

重要度の上位項目は第1位が「火災や災害からの安全性」(5.37点)、第2位が「自然環境の豊かさ」(5.31点)、第3位が「日常の買い物の便利さ」(5.07点)と続き、以下、「保健・医療の状況」(5.02点)、「ごみの収集・処理の状況」(5.00点)などの順となっている。

小平地区

重要度の上位項目は第1位が「火災や災害からの安全性」(5.41点)、第2位が「自然環境の豊かさ」(5.16点)、第3位が「ごみの収集・処理の状況」(5.15点)と続き、以下、「子どもの教育環境」(5.09点)、「保健・医療の状況」(5.00点)などの順となっている。

※加重平均値の算出方法

5段階の評価にそれぞれ点数を与え、評価点(重要度)を算出する。

$$\text{評価点} = \frac{\begin{array}{l} \text{「重視している」の回答者数} \times 10 \text{ 点} \\ + \\ \text{「やや重視している」の回答者数} \times 5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「どちらともいえない」の回答者数} \times 0 \text{ 点} \\ + \\ \text{「あまり重視していない」の回答者数} \times -5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「重視していない」の回答者数} \times -10 \text{ 点} \end{array}}{\begin{array}{l} \text{「重視している」、「やや重視している」、} \\ \text{「どちらともいえない」、「あまり重視していない」、} \\ \text{「重視していない」の回答者数} \end{array}}$$

この算出方法により、評価点(重要度)は10点～-10点の間に分布し、中間点の0点を境に、10点に近くなるほど評価は高くなり、逆に-10点に近くなるほど評価が低くなる(今回の調査では重要度がマイナス評価となる項目はみられなかった)。

図表7 村の現状評価について(全体、居住地別/重要度)

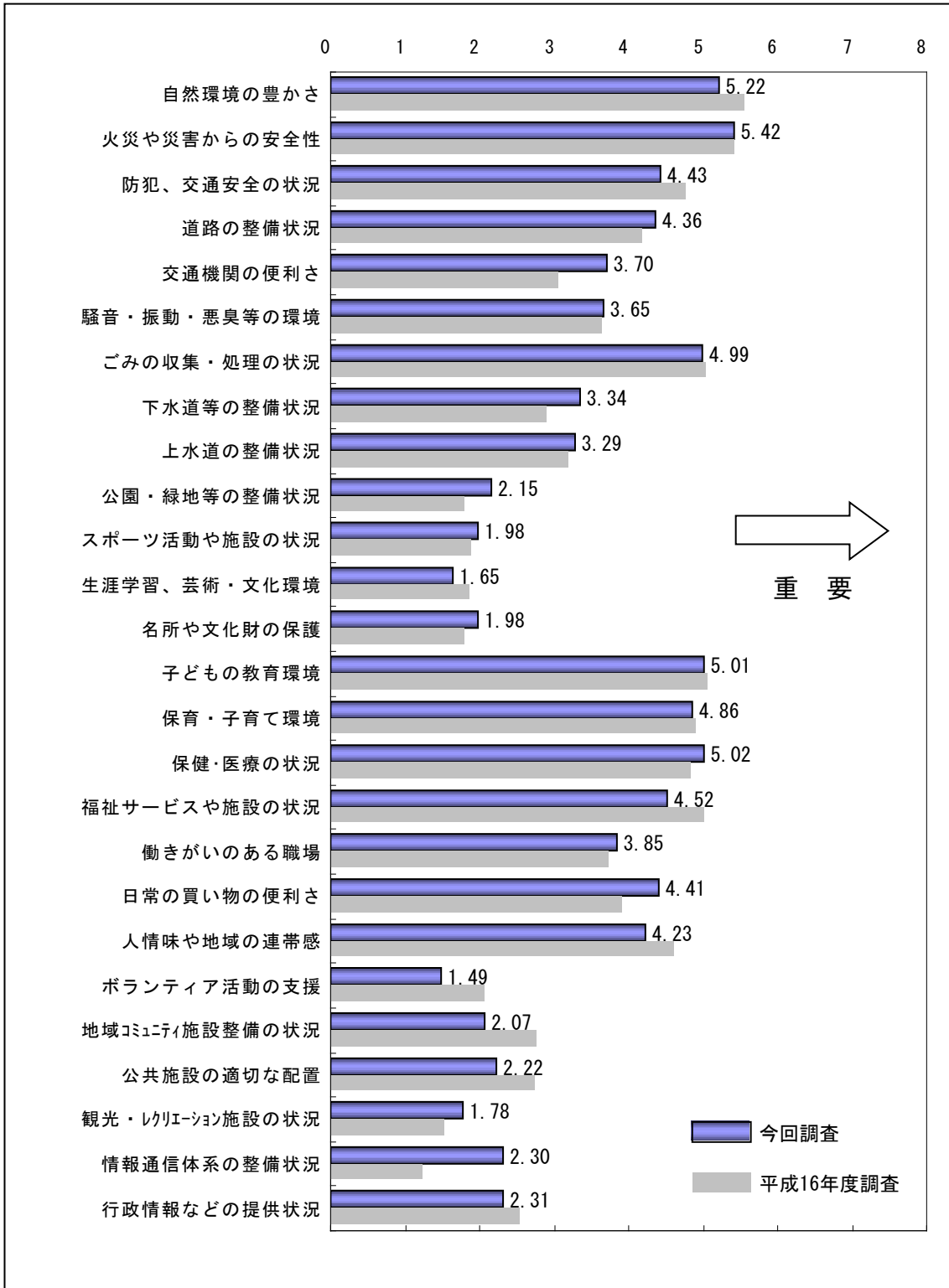
(単位：評価点)

	全体	全体 平成16年度 調査	居住地別	
			蓬田地区	小平地区
(1) 自然環境の豊かさ	②5.22	①5.56	②5.31	②5.16
(2) 火災や災害からの安全性	①5.42	②5.41	①5.37	①5.41
(3) 防犯、交通安全の状況	4.43	4.76	4.65	4.18
(4) 道路の整備状況	4.36	4.18	4.40	4.38
(5) 交通機関の便利さ	3.70	3.06	3.84	3.64
(6) 騒音・振動・悪臭等の環境	3.65	3.65	3.79	3.65
(7) ごみの収集・処理の状況	⑤4.99	④5.04	⑤5.00	③5.15
(8) 下水道等の整備状況	3.34	2.89	3.65	3.17
(9) 上水道の整備状況	3.29	3.19	3.71	3.04
(10) 公園・緑地等の整備状況	2.15	1.79	2.13	2.01
(11) スポーツ活動や施設の状況	1.98	1.88	1.87	2.00
(12) 生涯学習、芸術・文化環境	1.65	1.87	1.50	1.70
(13) 名所や文化財の保護	1.98	1.80	1.73	2.32
(14) 子どもの教育環境	④5.01	③5.06	4.93	④5.09
(15) 保育・子育て環境	4.86	4.89	4.84	4.93
(16) 保健・医療の状況	③5.02	4.84	④5.02	⑤5.00
(17) 福祉サービスや施設の状況	4.52	⑤5.00	4.52	4.51
(18) 働きがいのある職場	3.85	3.74	3.82	3.92
(19) 日常の買い物の便利さ	4.41	3.92	③5.07	3.83
(20) 人情味や地域の連帯感	4.23	4.60	4.27	4.25
(21) ボランティア活動の支援	1.49	2.07	1.55	1.52
(22) 地域コミュニティ施設整備の状況	2.07	2.76	2.03	2.13
(23) 公共施設の適切な配置	2.22	2.74	2.21	2.28
(24) 観光・レクリエーション施設の状況	1.78	1.52	1.80	1.70
(25) 情報通信体系の整備状況	2.30	1.24	2.02	2.44
(26) 行政情報などの提供状況	2.31	2.55	2.45	2.26

※表中丸数字は順位を表している。

図表8 村の現状評価について(全体/重要度)

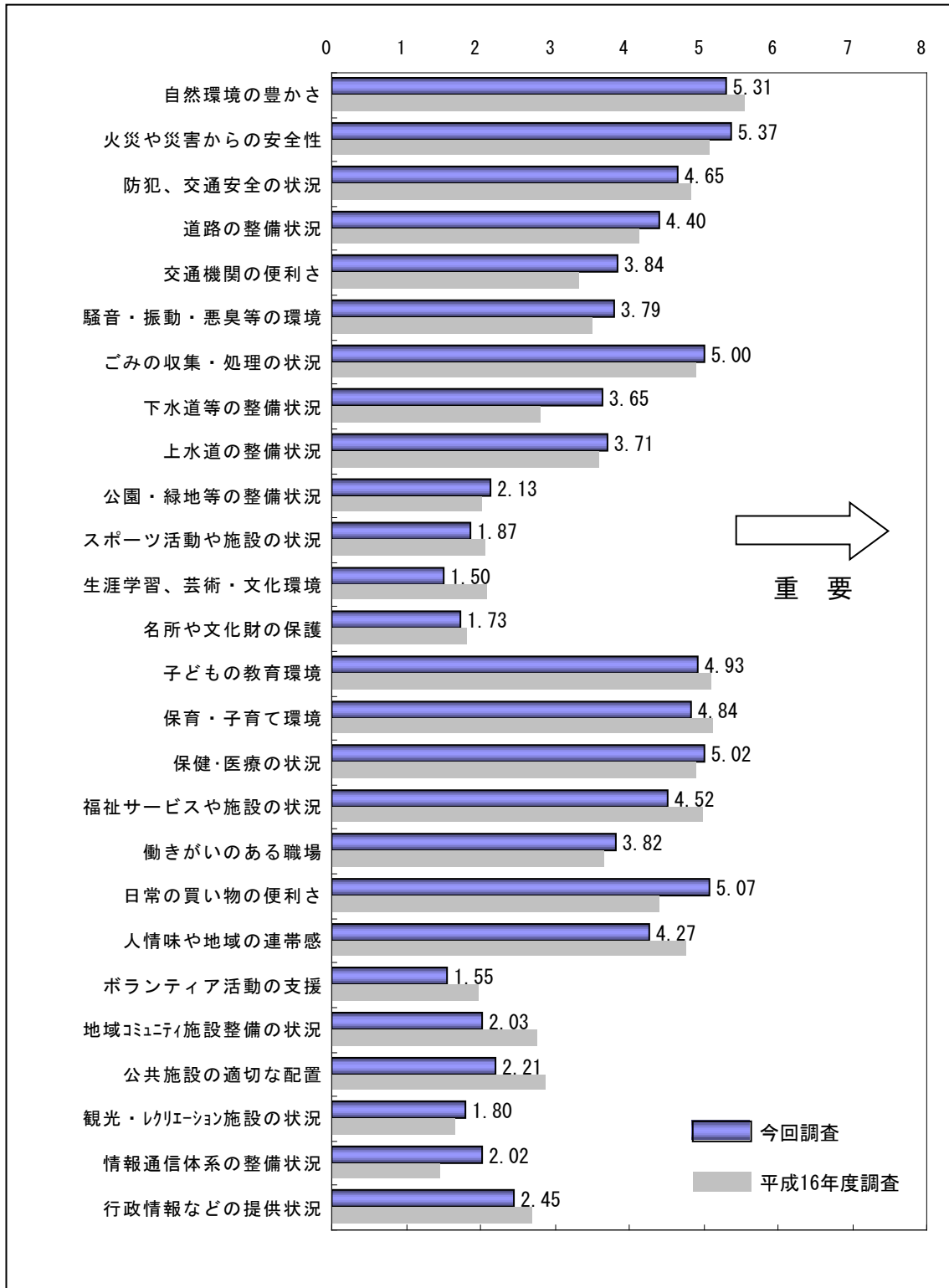
(単位：評価点)



図表9 村の現状評価について(居住地別/重要度)

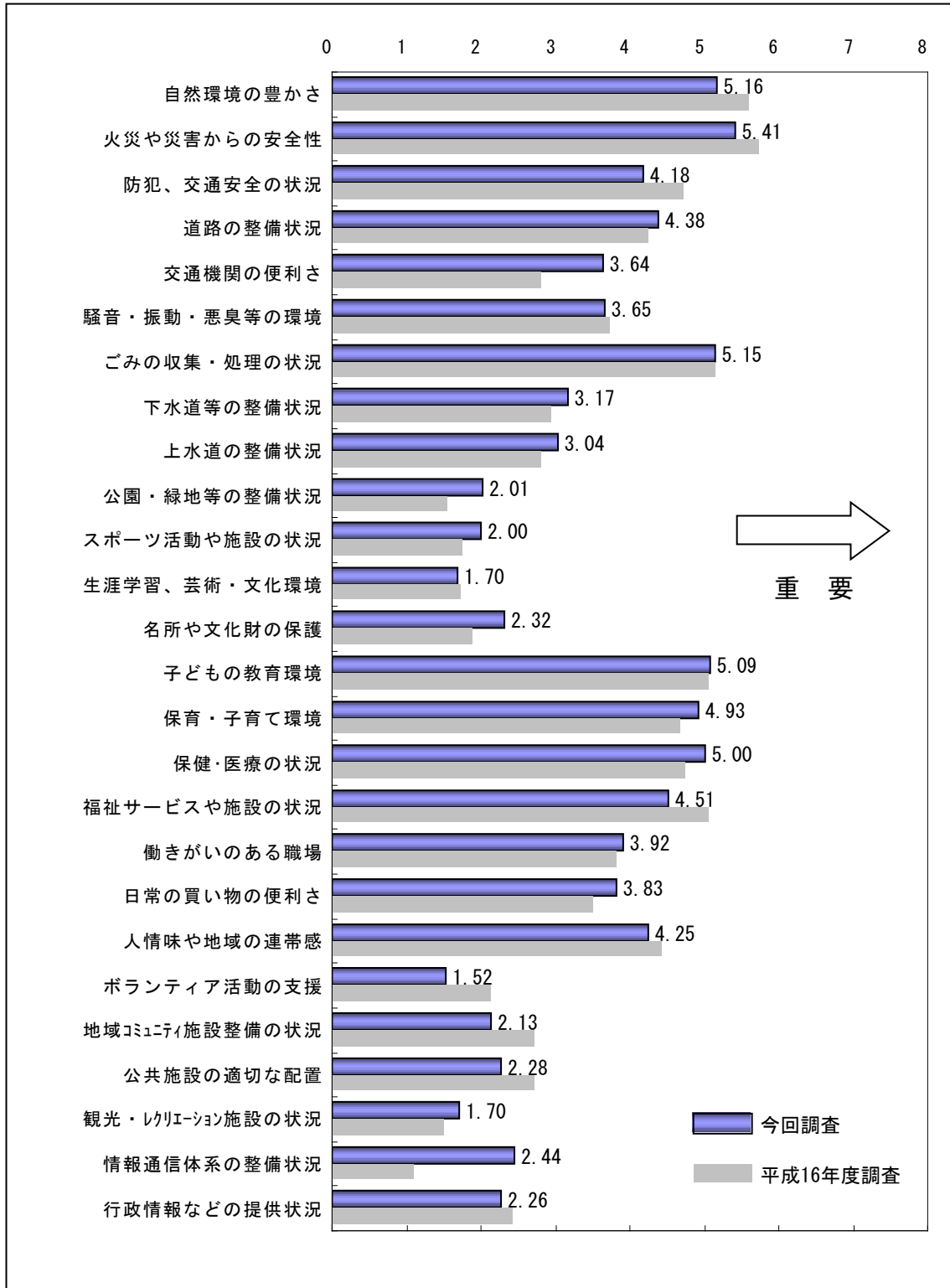
蓬田地区

(単位: 評価点)



小平地区

(単位：評価点)



②満足度

- 満足度の最も高い項目は「自然環境の豊かさ」。次いで「ごみの収集・処理の状況」、「火災や災害からの安全性」の順。
- 満足度の最も低い項目は「働きがいのある職場」。次いで「交通機関の便利さ」、「情報通信体系の整備状況」の順。
- 平成16年度調査では、満足度の最も高い項目は「自然環境の豊かさ」。次いで「騒音・振動・悪臭等の環境」、「ごみの収集・処理の状況」の順。
- 平成16年度調査では、満足度の最も低い項目は「働きがいのある職場」。次いで「交通機関の便利さ」、「道路の整備状況」の順。

平田村の各環境について、どの程度満足しているかを把握するため、自然環境や生活基盤、福祉・教育・文化環境、施設など各分野にわたる26項目を設定し、項目ごとに「満足している」、「やや満足している」、「どちらともいえない」、「やや不満である」、「不満である」の5段階で評価してもらい、その結果を加重平均値〔後述参照〕による数量化で評価点(満足度：最高点10点、最低点-10点)を算出した。

これによる全体での満足度評価は、「自然環境の豊かさ」(5.17点)が最も高く、次いで第2位が「ごみの収集・処理の状況」(3.15点)、第3位が「火災や災害からの安全性」(2.73点)と続き、以下、「騒音・振動・悪臭等の環境」(2.52点)、「上水道の整備状況」(1.58点)などの順となっている。また、満足度評価の低い方からみると、「働きがいのある職場」(-3.85点)が最も低く、次いで「交通機関の便利さ」(-2.93点)、「情報通信体系の整備状況」(-2.26点)と続いている。総合すると、満足度がプラス評価の項目が14項目、マイナス評価の項目が12項目となっている。

また、居住地別に満足度の上位項目と下位項目をみていくと、以下のとおりにまとめられる。〔図表10~12参照〕

蓬田地区

満足度の上位3項目は第1位が「自然環境の豊かさ」(5.12点)、第2位が「ごみの収集・処理の状況」(3.12点)、第3位が「火災や災害からの安全性」(2.97点)の順。一方、下位3項目は第1位が「働きがいのある職場」(-3.91点)、第2位が「情報通信体系の整備状況」(-2.72点)、第3位が「交通機関の便利さ」(-1.98点)の順。

設定した26項目のうちプラス評価の項目は14項目、マイナス評価の項目は12項目であった。

小平地区

満足度の上位3項目は第1位が「自然環境の豊かさ」(5.22点)、第2位が「ご

みの収集・処理の状況」(3.20点)、第3位が「騒音・振動・悪臭等の環境」(3.03点)の順。一方、下位3項目は第1位が「働きがいのある職場」(-4.00点)、第2位が「交通機関の便利さ」(-3.54点)、第3位が「日常の買い物の便利さ」(-3.14点)の順。

設定した26項目のうちプラス評価の項目は15項目、マイナス評価の項目は11項目であった。

※加重平均値の算出方法

5段階の評価にそれぞれ点数を与え、評価点(満足度)を算出する。

$$\text{評価点} = \left(\begin{array}{l} \text{「満足している」の回答者数} \times 10 \text{ 点} \\ + \\ \text{「やや満足している」の回答者数} \times 5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「どちらともいえない」の回答者数} \times 0 \text{ 点} \\ + \\ \text{「やや不満である」の回答者数} \times -5 \text{ 点} \\ + \\ \text{「不満である」の回答者数} \times -10 \text{ 点} \end{array} \right) \div \left(\begin{array}{l} \text{「満足している」、「やや満足している」、} \\ \text{「どちらともいえない」、「やや不満である」、「不満である」の回答} \\ \text{者数} \end{array} \right)$$

この算出方法により、評価点(満足度)は10点～-10点の間に分布し、中間点の0点を境に、10点に近くなるほど評価は高くなり、逆に-10点に近くなるほど評価が低くなる。

図表 10 村の現状評価について(全体、居住地別／満足度)

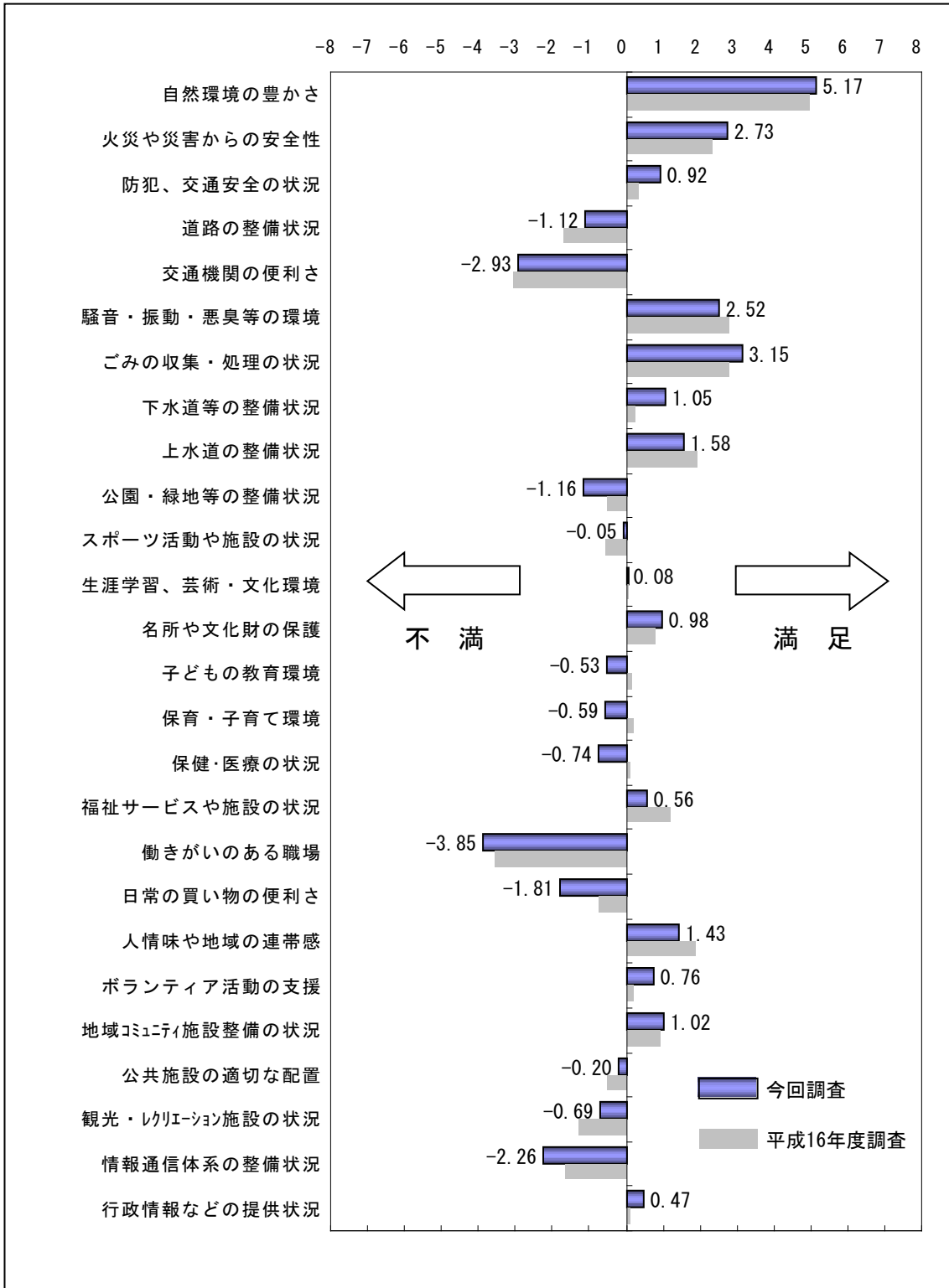
(単位：評価点)

	全体	全体 平成16年度 調査	居住地別	
			蓬田地区	小平地区
(1) 自然環境の豊かさ	①5.17	①4.97	①5.12	①5.22
(2) 火災や災害からの安全性	③2.73	④2.34	③2.97	2.57
(3) 防犯、交通安全の状況	0.92	0.34	0.71	1.09
(4) 道路の整備状況	-1.12	-1.68	-0.75	-1.52
(5) 交通機関の便利さ	-2.93	-3.05	-1.98	-3.54
(6) 騒音・振動・悪臭等の環境	④2.52	②2.79	1.82	③3.03
(7) ごみの収集・処理の状況	②3.15	③2.77	②3.12	②3.20
(8) 下水道等の整備状況	1.05	0.25	1.30	0.82
(9) 上水道の整備状況	⑤1.58	⑤1.94	2.09	1.11
(10) 公園・緑地等の整備状況	-1.16	-0.51	-1.46	-0.77
(11) スポーツ活動や施設の状況	-0.05	-0.55	-0.22	0.12
(12) 生涯学習、芸術・文化環境	0.08	0.09	-0.05	0.24
(13) 名所や文化財の保護	0.98	0.80	0.90	1.08
(14) 子どもの教育環境	-0.53	0.18	-0.63	-0.34
(15) 保育・子育て環境	-0.59	0.19	-0.82	-0.27
(16) 保健・医療の状況	-0.74	0.11	-0.78	-0.60
(17) 福祉サービスや施設の状況	0.56	1.20	0.69	0.40
(18) 働きがいのある職場	-3.85	-3.58	-3.91	-4.00
(19) 日常の買い物の便利さ	-1.81	-0.76	-0.12	-3.14
(20) 人情味や地域の連帯感	1.43	1.89	1.61	1.34
(21) ボランティア活動の支援	0.76	0.19	0.69	0.84
(22) 地域コミュニティ施設整備の状況	1.02	0.93	0.97	1.18
(23) 公共施設の適切な配置	-0.20	-0.52	0.18	-0.41
(24) 観光・レクリエーション施設の状況	-0.69	-1.27	-0.81	-0.46
(25) 情報通信体系の整備状況	-2.26	-1.65	-2.72	-1.79
(26) 行政情報などの提供状況	0.47	0.13	0.70	0.38

※表中丸数字は順位を表している。

図表 11 村の現状評価について(全体/満足度)

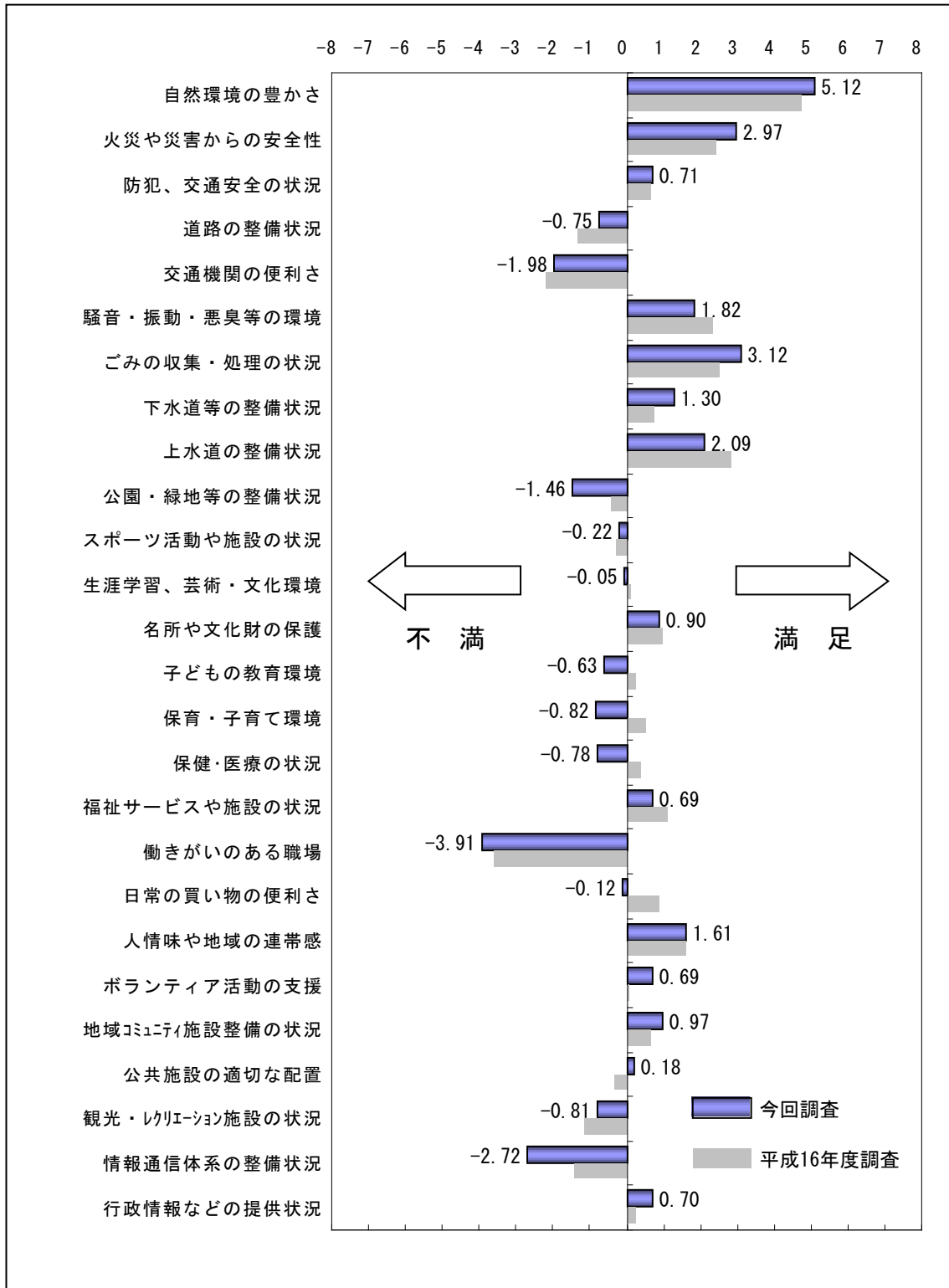
(単位：評価点)



図表 12 村の現状評価について(居住地別/満足度)

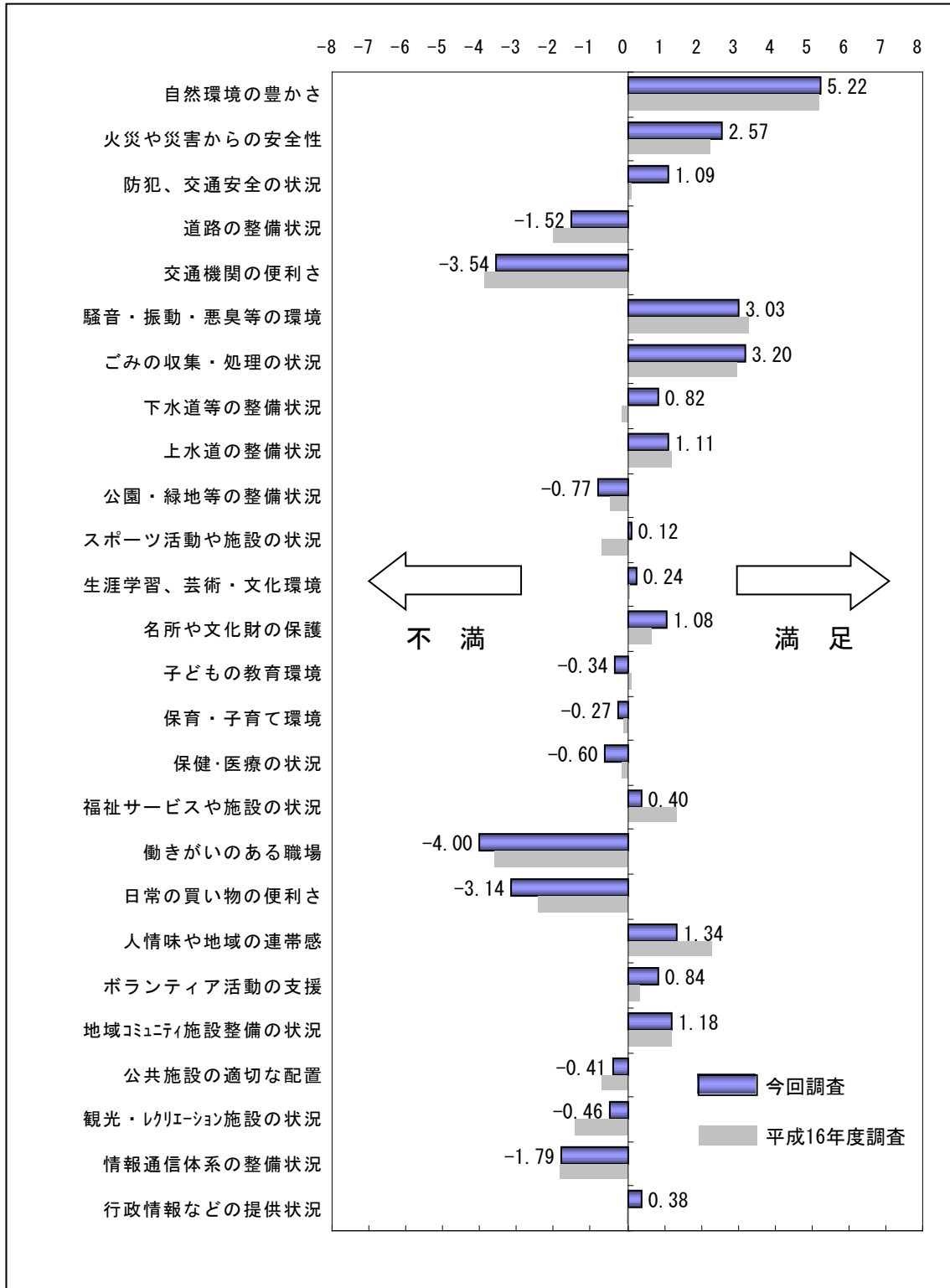
蓬田地区

(単位：評価点)



小平地区

(単位：評価点)



(4) 全体的な村の暮らしやすさについて

問5 全体的にみた、平田村の暮らしやすさについてどのように感じていますか。

- “満足している”が41.7%、「どちらともいえない」が27.6%、“不満である”が28.8%。
- 平成16年度調査では、“満足している”が41.9%、「どちらともいえない」が26.7%、“不満である”が29.3%。

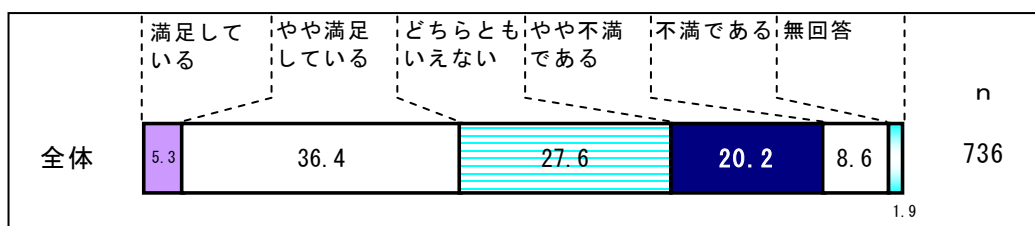
平田村の住民が全体的にむらの暮らしやすさに満足しているかどうかをたずねたところ、「満足している」(5.3%)と「やや満足している」(36.4%)をあわせた“満足している”という人が41.7%となっている。一方で“不満である”(「やや不満である」20.2%及び「不満である」8.6%の合計)は28.8%となっている。なお、「どちらともいえない」は27.6%であった。[図表13参照]

年齢別で“満足している”率をみると、加齢とともに率が上がる傾向がみられ、高い順から70歳以上(61.8%)、60代(55.1%)、50代(42.5%)、40代(37.6%)、30代(36.6%)、10~20代(32.9%)の順となっている。

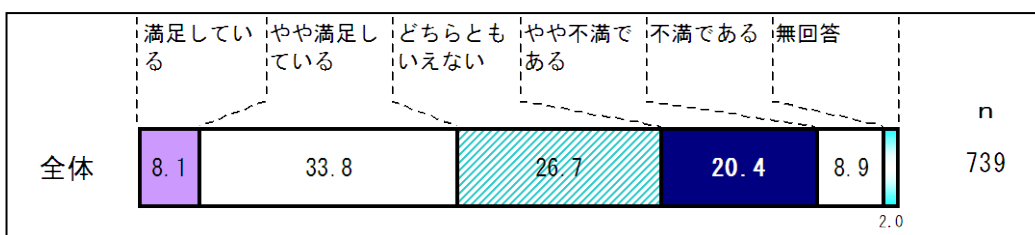
業種別でみると、第1次産業従事者(55.8%)で“満足している”率が他の業種に比べて高くなっている。

また、居住地別で“満足している”率をみると、蓬田地区(49.4%)の方が小平地区(35.8%)よりやや高くなっている。[図表14参照]

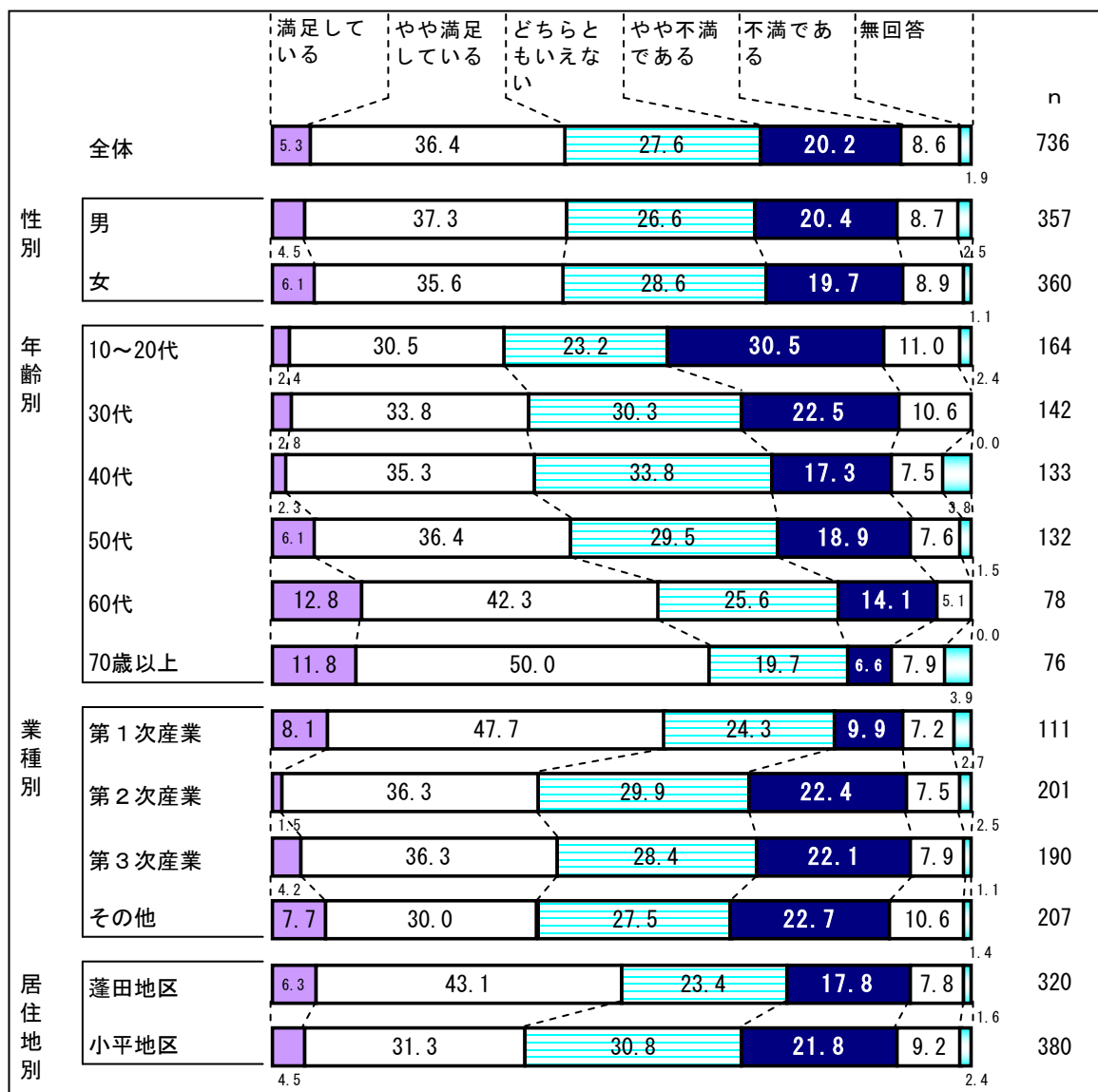
図表13 全体的な村の暮らしやすさ (全体)



平成16年度調査 (全体的な村の暮らしやすさ)



図表 14 全体的な村の暮らしやすさ（全体、性別、年齢別、業種別、居住地別）



(5) 満足度と暮らしやすさの相関

- “とりわけ改善が必要”は「日常の買い物の便利さ」、「保健・医療の状況」、「保育・子育て環境」の3項目が挙げられる。
- 平成16年度調査では、“とりわけ改善が必要”は「保健・医療サービスや施設整備の状況」と「公共施設の適切な配置」。

(3)村の現状評価についての満足度と、(4)全体的な村の暮らしやすさの相関関係を、CSグラフ〔後述参照〕により満足度偏差値、重要度偏差値（相関係数）、改善度を算出した。このグラフによって、現状評価の各項目の満足度と、全体評価の満足度の相関関係を明らかにし、どの項目の満足率を上げることによって、全体の満足率が上がるかということを統計的に説明しようと試みている。この結果、**図表16**のとおり、“改善の必要性が高いと思われる”に分類される項目は15項目、“改善の必要性が低いと思われる”に分類される項目は11項目となっている。また、改善度10点以上の項目が“とりわけ改善が必要”として挙げられ、**図表15**の改善度をみると、「日常の買い物の便利さ」（16.37）、「保健・医療の状況」（10.33）、「保育・子育て環境」（10.08）が挙げられる。

※CS（顧客満足）グラフの算出方法

満足度評価の「満足している」、「やや満足している」を“満足”、「やや不満である」、「不満である」を“不満”、「どちらともいえない」の3段階評価による回答数と割合を各項目で算出する。さらに総合評価とのクロス集計を行った後、各項目の独立係数を算出する。

CSグラフにプロットする位置を決めるため、満足率と独立係数それぞれの偏差値を算出し、独立係数を横軸に、満足率を縦軸にとる。

改善度は、プロットの原点からの距離×修正指数で算出する。原点からの距離、修正指数は以下の計算式を用いる。

$$\text{距離} = \sqrt{(x - \bar{x})^2 + (y - \bar{y})^2} \qquad \text{修正指数 } r = \frac{90 - \text{角度}}{90}$$

※独立係数を重要度と読み替えてグラフを作成。

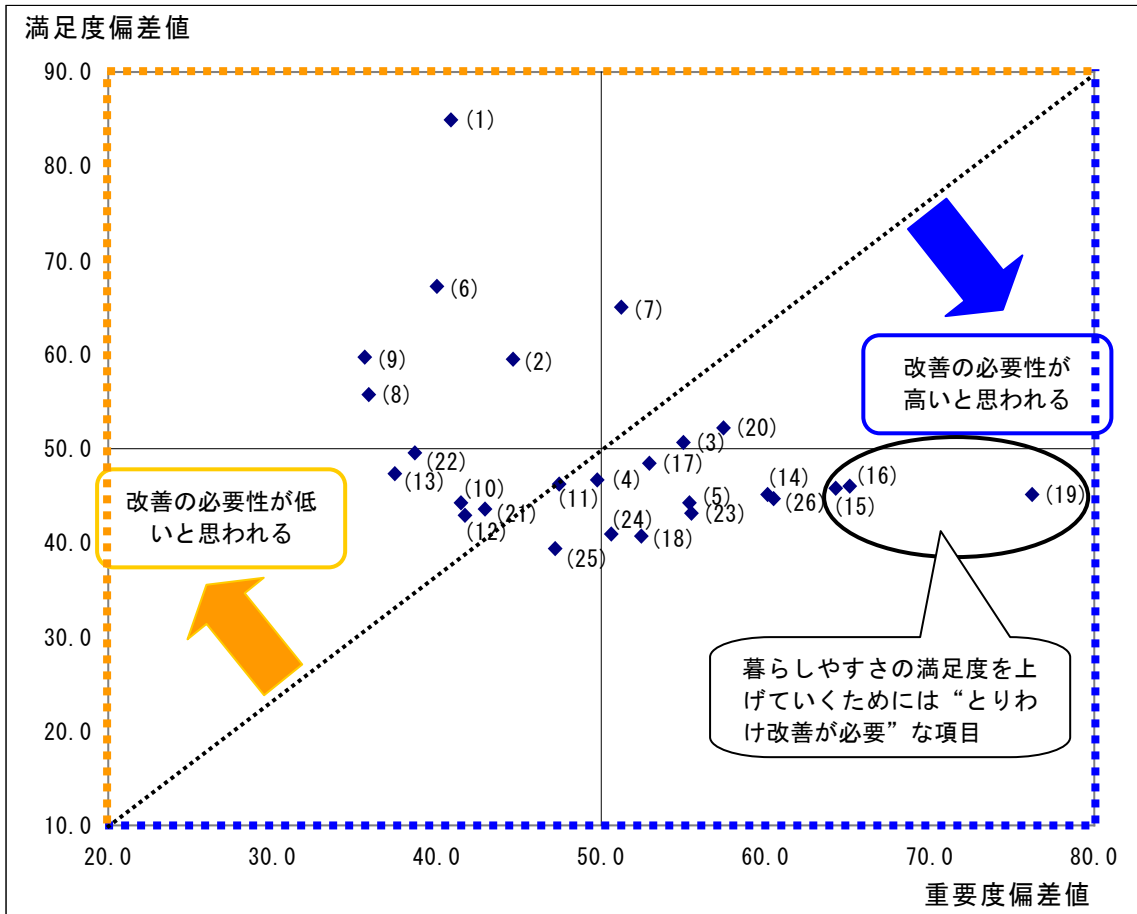
図表 15 満足度と暮らしやすさの相関(全体／満足度偏差値、重要度偏差値、改善度)

	全体			平成16年度 調査
	満足度偏差値	重要度偏差値	改善度	改善度
(1) 自然環境の豊かさ	85.00	40.87	-23.96	-23.18
(2) 火災や災害からの安全性	59.55	44.67	-9.01	-2.51
(3) 防犯、交通安全の状況	50.69	55.03	2.10	7.88
(4) 道路の整備状況	46.78	49.70	1.43	3.27
(5) 交通機関の便利さ	44.17	55.35	7.70	1.67
(6) 騒音・振動・悪臭等の環境	67.32	40.00	-16.67	-28.22
(7) ごみの収集・処理の状況	65.02	51.18	-6.78	-17.30
(8) 下水道等の整備状況	55.72	35.83	-11.37	-3.78
(9) 上水道の整備状況	59.83	35.60	-15.37	-15.99
(10) 公園・緑地等の整備状況	44.25	41.42	-1.28	-4.15
(11) スポーツ活動や施設の状況	46.31	47.38	0.49	5.06
(12) 生涯学習、芸術・文化環境	42.98	41.74	-0.56	4.56
(13) 名所や文化財の保護	47.34	37.44	-4.71	2.64
(14) 子どもの教育環境	45.06	60.14	8.89	4.03
(15) 保育・子育て環境	45.91	64.31	10.08	6.07
(16) 保健・医療の状況	46.09	65.13	10.33	13.55
(17) 福祉サービスや施設の状況	48.36	52.91	2.76	4.26
(18) 働きがいのある職場	40.70	52.39	6.34	1.68
(19) 日常の買い物の便利さ	45.20	76.16	16.37	5.22
(20) 人情味や地域の連帯感	52.21	57.42	2.44	-3.64
(21) ボランティア活動の支援	43.64	42.87	-0.34	6.58
(22) 地域コミュニティ施設整備の状況	49.58	38.60	-5.44	3.91
(23) 公共施設の適切な配置	43.09	55.50	8.19	11.05
(24) 観光・レクリエーション施設の状況	41.00	50.63	4.91	5.99
(25) 情報通信体系の整備状況	39.49	47.25	3.66	-0.03
(26) 行政情報などの提供状況	44.72	60.47	9.35	5.92

※CSグラフにおける改善度は、プラス10以上が「とりわけ改善が必要」の基準と考えられる。

図表 16 満足度と暮らしやすさの相関(全体)

(単位：偏差値)



改善の必要性が高いと思われる	改善の必要性が低いと思われる
(3) 防犯、交通安全の状況	(1) 自然環境の豊かさ
(4) 道路の整備状況	(2) 火災や災害からの安全性
(5) 交通機関の便利さ	(6) 騒音・振動・悪臭等の環境
(11) スポーツ活動や施設の状況	(7) ごみの収集・処理の状況
(14) 子どもの教育環境	(8) 下水道等の整備状況
(15) 保育・子育て環境	(9) 上水道の整備状況
(16) 保健・医療の状況	(10) 公園・緑地等の整備状況
(17) 福祉サービスや施設の状況	(12) 生涯学習、芸術・文化環境
(18) 働きがいのある職場	(13) 名所や文化財の保護
(19) 日常の買い物の便利さ	(21) ボランティア活動の支援
(20) 人情味や地域の連帯感	(22) 地域コミュニティ施設整備の状況
(23) 公共施設の適切な配置	
(24) 観光・レクリエーション施設の状況	
(25) 情報通信体系の整備状況	
(26) 行政情報などの提供状況	